



みのる法律事務所便り
令和5年9月第401号



みのる法律事務所
弁護士 千田 實
〒021-0853
岩手県一関市字相去57番地5
TEL:0191-23-8960
FAX:0191-23-8950



いなべん だべんく
田舎弁護士の駄弁句 (147)

手遅れと 思いながらも やっている



どう生きるかと 今日も考え

令和5(2023)年9月1日

あおぞらうきよのすて
青空浮世乃捨

八十路に入っては、今更どう生きようかと考えても、もう手遅れだと思ふこともあります。ですが、今でも、今日一日どう生きてやろうかと考えています。少し頭がおかしいのではないかなどと思ふこともあります、至って真面目です。

令和5(2023)年8月31日に、いなべんの哲学『人生は、いまの一瞬を、まわりの人といっしょに、楽しみ尽くすのみです』シリーズ第11巻『実際に役立つ哲学—今日一日の生き方を考える—』を発行しました。この事務所便りをお読み戴いている皆様にお読み戴きたく、同封します。

これから先も、生きている限り、今日一日をどう生きたら楽しいかを考えながら、生きることになると思います。年を重ねるごとに、そのような考え方は強くなってきています。

今日一日をどう生きるかを考え、今日一日をどう生きたかを振り返り、一日が終わります。一生もどう生きるかを考え、どう生きたかを振り返ることになるのでしょうか。生きている限り、楽しく生きる方法を考えることには、手遅れはないような気がします。

いなべん だべんく
田舎弁護士の駄弁句 (148)

生きている それがわかれば やるだけさ

生きてる限り 今日も本気で



令和5(2023)年9月1日

あおぞらうきよのすて
青空浮世乃捨

夜中の2時から3時頃には、おしっこがしたくなり目を覚まします。目が覚めると、「今日も生きている」と実感します。「今日もやってやろうか」とトイレから戻ると机に向かい駄文を書き始めます。

朝のウォーキングやストレッチの時間までは駄文書きに夢中となり、ウォーキングやストレッチを息を切らしてやり、朝食を楽しんで戴きます。仕事は、スタッフとクライアントと楽しい時間を共有するように心懸けてやることにしています。

そのように今日一日を本気で生きることになっています。イヤイヤ生きても一日は一日です。楽しく生きても一日は一日です。同じ一日なら楽しく生きた方がいいに決まっています。泣いて生きても一生、笑って生きても一生です。笑って生きたいのです。

「今日も生かされている。今日一日、楽しんで生きてやる」と本気で思います。孫を見ていますと、ゲームに夢中で他人のことは気にならないようですが、ゲーム機を操作できないジジイの身は、楽しいことも嫌なことも人間関係にあります。今日も人間関係を大切に、本気で生きたいのです。



処理水問題と安全保障 と政治家と国民



福島第一原発事故の後始末^{あとしまつ}の一つである処理水問題は、国内だけではなく国際問題となりつつあります。どこまで揉めるのでしょうか。

福島第一原発というたった一つの原発事故の後始末に過ぎない、しかもそのほんの一部の処理水問題だけで、これほどの騒ぎを起こす原発の再稼働や増設を考えている政治家に対し、不信感を禁じ得ません。何を考えているのだろうか、その頭の中と心の中を覗^{のぞ}いてみたくなってしまいます。どこかが狂っている気がするのです。

「政治家の頭や精神状態は、まともではないのではないか。ウクライナに武力侵攻したプーチンや、国会に乱入したり選挙は無効だと主張するトランプや、ミサイル発射を繰り返すキムも頭がおかしいのではないか。原発の再稼働や増設を考えている日本の政治家も同じではないか」と、口の悪い老友は言います。

老友のこのことばには、そう言われればそのような気もしてきます。やってはならないと誰でも思うことを平気でやる政治家がいることは確かです。

世界中には沢山の原発がありますが、原発は全面的に禁止している国もあります。福島原発の一つに過ぎない第一原発の処理水問題だけでもこれほどの騒ぎになっていますが、原発の使用済み核燃料をどうするかという問題の抜本的な解決策^{ぼつぽんてき}はまだ見えてないのです。福島第一原発の処理水だけで、これほど揉^もめ、その解決策を見

付け出せないでいながら、原発の再稼働や増設を提案する政治家の頭や精神状態を心配する老友のことばには説得力があります。

さすが、わが友と、拍手を送りたい気持ちです。ことばは乱暴ですが、「そうだ、そうだ」と共感してしまいます。



「安全保障」ということばを^{こうじえん}広辞苑で引くと、「外部からの侵略に対して国家および国民の安全を保障すること」と解説しています。主語が抜けていますが、「国家は」とか「国の政治は」とかが主語として入ることになるのでしょうか。私は「国民は」と入れるのがいいのではないかと思っています。

つまり安全保障とは、「国民は、国民の安全を保障しなければならない」ということになるのです。明治憲法下において、日清戦争、日露戦争、日中戦争、太平洋戦争（第2次世界大戦）という戦争に明け暮れた^{にが}苦い経験に基づき、日本国民は、戦争放棄と戦力不保持の新憲法を^{つく}創り出しました。日本国民は、戦争放棄と戦力不保持という方法で国民の安全を保障することにしたのです。

それにもかかわらず、現在世界第8位の軍事大国となり、近いうちに世界第5位の軍事大国にしようしたり、原発再稼働や増設を考えている政治家に対し、「政治家の頭や精神状態は、まともではないのではないか」という老友のことばには、「そう言われれば、そうかもしれない」などと納得してしまいます。

しかし、私は政治家だけではなく、そのような政治家を生み出している国民も同じような気がしてならないのです。主権者である私たち国民が、しっかりしなければならないのです。

